

電子図書館先行自治体調査について(報告)

新たな図書館のサービスとして電子書籍の貸出サービスが注目されている。この電子書籍の貸出サービスである電子図書館を先行して導入している県内の自治体に対して、アンケート及び現地調査を実施し、検証結果をもとに電子図書館の有効性について研究する。

電子図書館とは

- ・ 現状の図書館が電子図書館に置き換わるのではなく、図書館に追加されるサービス
- ・ 電子書籍は紙の書籍に比べ高額（2～3倍）
- ・ 書籍によっては利用に回数や期間の制限有り
- ・ 電子書籍は、原則1冊につき一人の利用
- ・ 電子書籍ならではの特色あり（動画や音声読み上げ機能、文字サイズの拡大機能）
- ・ 地域資料を電子化し電子図書館システムに搭載可能
- ・ 図書館業務の貸出や返却の省力化
- ・ 図書館の省スペース化

1 愛知県内の公共図書館における電子図書館の導入状況について

- ・ 令和4年6月1日現在、愛知県図書館及び13市1町（25.9%）が導入【県内の市町村数54（38市14町2村）】
（内訳）コロナ以前から導入している図書館 5館
2021年以降に導入した図書館 9館
- ・ 豊田市中心図書館は郷土資料のみを電子化
- ・ 電子図書館システムは、愛知県図書館はKinoden、それ以外の図書館はTRC（図書館流通センター）を使用

2 アンケート調査について

令和4年6月1日現在で、導入市町（郷土資料のみの豊田市を除く）に対しアンケート調査を実施した。

(1) 電子図書館・電子書籍貸出サービスの導入状況

主な項目	平均	最小及び最大
所蔵数	約5,200冊	約500冊～ 16,000冊
購入数	約2,500冊	約70冊～ 15,000冊
貸出数	約18,000冊	約3,600冊～ 104,000冊
利用人数	約15,000人	約800人～ 67,000人
令和3年度電子書籍購入金額	約697万円	約30万円～ 3,700万円
令和3年度電子図書館システム維持費	約136万円	約66万円～ 182万円
令和4年度電子書籍購入予算	約415万円	約78万円～ 1,600万円

(2) 利用者からの主な要望

- ・ 市外利用者からの利用の要望
- ・ 電子書籍のコンテンツ数の増加
- ・ 市内の高校等から一括利用登録の要望の増加

(3) 電子図書館の管理・運営面での課題・改善点

- ・ 事務の煩雑さ
- ・ 電子図書館のPRが必要
- ・ 公共図書館向けの電子書籍のコンテンツ数や種類の少なさ
- ・ 紙の書籍に比べ価格が高額(2～3倍)
- ・ 人気の高いコンテンツは利用回数や期間に制限有り
- ・ 購入後もライセンスの追加や更新等の管理が必要
- ・ 期間に制限がある書籍で、貸出回数が0回のものがある
- ・ 選書方法の改善
- ・ 電子図書館の統計の改善
- ・ 電子図書館利用のための利用者登録をオンラインで申請・更新可とする
- ・ 利用者は市内在住に限っているが、将来的に在勤、在学までの拡大

3 現地での調査について

電子図書館運用の現状を把握するため、現地での聞き取り調査として、7月に名古屋市鶴舞中央図書館及び小牧市中央図書館を現地調査した。

電子図書館について主な調査内容

(1) 担当職員

- ・ 1、2人程度（専属、もしくは図書館システムとの兼務）

(2) 選書担当者、選書会議の頻度や選書冊数

- ・ 選書担当者は6、7人程度
- ・ 選書会議は概ね月に1回、もしくは季節ごとに年3回実施
- ・ 選書冊数は1回あたり200～250冊を選定

(3) 図書館システムとの連携、非連携について

- ・ 連携の場合、資料検索で紙・電子の書籍が同時に検索結果に表示されるため、問い合わせにも同時に対応可能。利用者は、資料によって紙書籍か電子書籍かを選ぶことができ、電子書籍への誘導が可能
- ・ 非連携の場合、ID・パスワードの管理が煩雑になると判断
- ・ 連携を選択した理由は、他館において現行の図書館システムとの連携実績があるため

(4) 利用者からの反応

- ・ 利便性が良い、久しぶりに本を読んだなど好意的な反応が多い
- ・ 図書館ホームページ上の電子図書館への入り方がわからないとの意見があり、バナーを増やすなど対応を検討
- ・ 電子書籍1冊につき1人しか借りられないことや来館しなくても借りることができるのが電子書籍の特長だが、利用者カードの有効期限切れのために図書館に出向かなければならないことに対して意見あり

(5) 導入して良かった点・悪かった点

- ・ コロナ前から電子図書館の計画を進めていたので、コロナ禍において迅速な市民サービスが提供でき、結果として良いタイミングで導入できた。
- ・ 購入した電子書籍がすぐに利用されたり予約が入ったりして、利用者の反応が見えるので手応えを感じる。紙書籍とは違う選書の楽しさがある。
- ・ 収蔵する電子書籍数が少ないので、今後充実させていきたい。